

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392800050
法人名	矢部開発株式会社
事業所名	グループホーム緑仙館
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原9-11
自己評価作成日	令和6年9月10日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道218号線沿いに位置しており近所に清和文楽邑・小中学校・保育所・役場・農協・図書館があり緑も多い。
 かかりつけ病院もほどよい距離にあり安心である。
 それぞれのペースとリズムにて好きなように過ごされている。
 職員は明るく入居者の生活が安心で安全であるよう努め、ご家族へ生活の様子を詳細に伝えるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者がこれまで培ってきた地域の中の資源や人のぬくもりの中で、笑って過ごす環境が築かれたホームでは、役場や郵便局等へも一緒に出かけ、買い物では選択の機会とする等社会性を継続させている。小規模リフォームや自家発電の設置や、食形態等も変更しているが、職員体制に変わりもなく、必要とされる場所・必要とされる人を目標として職員が心ひとつにしたホームである。入居者の行きたい場所への外出を叶えたいとして下肢筋力維持・アップにトライされる入居者、本人の意欲を引き出す声掛け、“最期の時まで一緒に”とする熱い思いを持って支援している。火災訓練では消防団、消防署による救急救命講習、行政による簡易ベッドの作り方等ホームを取り巻く関係機関との協力体制等地域一体となってホームを支え、地域の一員として活動するホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「仁徳」であり思いやり、慈しみのあるケアを行えるよう努めている。年度始めに必ず議題とし共有している。	法人代表の社会貢献への熱い思いを理念として今に引き継いでいる。「仁徳」を中心に置き、必要とされる場所・必要とされる人を目指したホームでは入れ替りの少ない職員体制であり、理念は職員に浸透している。更に、毎年のスタートとして理念を基にした話し合いを行っている。入居者と職員との家族的な関りや楽しく過ごすホームである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	広報紙配りや祭りへの参加近所への買い物地区の美化作業参加している。	入居者の生活圏である文楽館での散歩や買い物等地域の中での充実した日常を支援している。区長からの声かけによる美化作業への参加や、地域へ広報紙配布と一緒に出かけると昔の元気な頃の情報を得たり、住民の見守りに繋げる等地域の中で確固たる基盤が形成している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会から、認知症の関り方について話してほしいと誘いがあったり、行政より福祉相談員との面談を受け入れています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。状況報告や生産性向上の取組やBCP作成に関わるアドバイスや意見があり活かしている。	定例化した運営推進会議は現状報告や課題を持って話し合うとともに、食中毒についての説明や消防署の協力による救急救命について学ぶ機会を作っており、参加委員からのAED設置の必要性等有意義な意見が出されている。行政の他、社協・区長・民生委員・老人会長や町会議員等充実したメンバー構成である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業に関する情報は随時役場より提供があり 運営推進会議にも参加いただいているので相談しやすい。実地指導も受け運営状況チェックしていただいた。	行政には不明な点は何でも相談し、実地指導や生活保護支援等協力関係を築いている。蘇陽清和地域ケア会議のメンバーとして、乗り合いタクシーについての意見交換に参加している。また、民生委員の視察や福祉相談員(月1回)を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までに家族へ同意していただいていた身体拘束や家族からの拘束要望等ない。してはならない行為であると考えており、スピーチロックは改善傾向である不穏時の言動や行為を止めない まず見守るようにしている。	身体拘束について事例も無く、運営推進会議で検討する事案も発生しておらず、家族からの要望も無いことを報告している。これまでに夜間の転倒防止として家族と相談した事例はある。毎年の研修による意識付けやスピーチロック等のグレーゾーンは職員同士が注意喚起している。外出傾向の有る入居者には本人の言葉に寄り添い、寂しい思いをさせないようメリハリのある生活を支援するとしている。	離設(無断外出)については、一日の過ごし方を検討し、所在確認の徹底を申し合わせている。また、地域住民への情報提供や情報交換のために近隣住民へも呼びかけたいとしている。今後も、入居者の安全面からも所在確認の徹底とともに、職員の手薄時間帯等注意を怠らないよう気を付けていきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権侵害であること職員のモラルの問題だけではなく職場環境・職員への教育・指導も重要であるとらえ勉強会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度議題とし勉強会をしている。 現在活用が必要な入居者はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に必要な物品や情報の取り扱いや契約書・重要事項説明書他必要な書類に関して 理解 納得されるよう説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度、家族アンケート実施。 電話や面会時に意見や要望の有無など聞き取るようにしている。	家族には毎年内容を変えながらアンケートを実施し、家族の思いに応えている。また、ケアプランの見直し時等に要望等を聞き取りしている。現在は家族との交流は行っていないが、家族が何をしたいのかを重要として捉えながら家族の身になって検討し、家族も敬老会等に訪問されている。入居者も外出の希望等職員に気軽に申し出られている。	コロナ禍により家族会の開催や家族同士の交流は行われていないようである。時期をみながら、家族同士の交流等検討いただきたい。家族の忌憚の無い意見等をホーム運営に反映されることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第火曜日を全体会議とし、管理者がひとつの現場課題に対して様々な意見を職員から聞き出しながらひとつの方向に限らない考え方を養い それを実践するホーム全体の雰囲気づくりを大切にしています。	朝・夕の申し送りにより情報を共有し、毎月の全体会議の中で意見や要望・提案等を聞き取りしている。管理者を中心にあまり変わらない職員体制は風通しも良く、備蓄の置き場所やケアシーツ、ベッドにL字板の設置、歩行器（予備があればよい）等の物品への希望には管理者を通して上申する体制としている。法人としても現場の意見をもとにしたホーム運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との意見交換を意識し大事にしています。 常に現場にいる職員が身体的・精神的に安定して仕事ができるように運営者として出来る事を 実行したいと考えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学びたいという職員の自己啓発を大事に思っています。毎日の介護業務にもっと力をつけたいと考える職員に対しての十分な協力が常に出来る態勢でありたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やケア会議などそれぞれの会議参加できるようにしている。Zoomでの会議や研修が出来るよう環境整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介助をとおして関わりながら、必要な事・苦手なこと、出来る可能性を探しながら本人の気持ちを聞きながら一緒に過ごすことで、安心できる存在となるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声を大切にしたい。思いや不安に共感できるように。何でも話してもらえる関係性が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報と直接関わっての状況を考察し本人や家族の希望に添うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に行動したり作業したりする中で感謝の言葉を伝え。入居者の方に相談したりしながら一緒に考えてみるようになった。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の付き添いや外出・外泊・面会など介入していただきながら共に支援していきましようという関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人に会いに行く。知人の面会。孫・ひ孫の面会。 自宅を見にでかけている。	清和文楽の公演に掛けたり、家族支援によるドライブや外泊(自宅)、定期的に訪問される知人、役場へ書類提出に職員と一緒に出かけたり、郵便局・社協等入居者に関わって貰う事で社会性の継続の一つとしている。お寺の門徒としてお参りを支援する等馴染みの関係性が途切れないよう支援している。健軍商店街や鶴屋等もともと馴染みの場所であるとして出かける事を楽しみにされている様子も垣間見られるホームである。更に夜の晩酌(ノンアルコール)や、入居者と職員も馴染みの関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ネガティブな発言多い方に、職員ではなく利用者の方に励ましてくれるよう頼んでみたり、どうしたらいいと思う？と相談してみたりして一緒に考えてみるようになった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、法要や帰省時に来館して下さったり義父母を看取り、実父母の相談があったりしている。時間の経過とともに、こちらから手紙をお出しすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わっていく中で言葉であったり行動や表情であったり、家族の面会時に話されることだったりに関心事を汲み取っていくよう努力している。	入居に当り個々のバックボーンを把握し、職員は介護する側として一方的な考えを持たず、何でも聴かせて貰おうという気持ちや尊厳を持って対応し、意思表示や言葉での発信のみならず、表情・行動等から推察している。入居者も自由に発言したり、快・不快等しっかりと示されており、職員は入居者の意思に寄り添ったケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活情報であったり、入居後の生活歴の聞き取りや面会時に情報を得られるようつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気分や体調に合わせて過ごされるよう支援している。無理はせず、無理強いもしない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当がモニタリングを行い意見をもとに、計画作成に活用している。計画作成者も担当も家族と関わりをもち職員皆と共有できるように会議時に思いを伝え、意見を出しあっている。	本人及び家族等のニーズを基にした介護計画書は、短期目標3ヶ月毎のモニタリングにより継続可否を見極め、半年毎には見直し新たなプランとしている。入居者の「何でもしますよ」の声に、作業として厨房の手伝いや洗濯物たたみ、新聞読みや読書等を組み入れ、気分転換には部屋の掃除や整理整頓の他、町外への外出等具体化したプランが策定されている。個別記録とプランを一体化していることで、プランの確認や計画書に特記事項として朱書きすることで、プラン作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まだまだ不十分である、その時の気づきや推測される思いなど…まだまだである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子での送迎が困難な自宅や役場・式場や送迎受診等家族の依頼時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	役場や文楽邑・郵便局・役場・病院・薬局・ガソリンスタンドなど顔見知りの関係性のなかで生活支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に予約制での受診支援している。家族が付き添われるケースもある。予約外の受診必要時は受診できる。家族の希望や意向を病院へ伝えることができる関係性である。	公立の総合病院をかかりつけ医として事前予約により受診に出かけている。独歩の入居者等には2名同時に受診する場合もあるが、車いす利用者の場合には1対1で対応したり、現地で家族と待ち合わせる等柔軟に支援している。日に三度の血圧及び検温のチェックをはじめ、職員は入居者の普段の関わりから異常を早期に見極め、医療支援に繋いでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談できる関係である。不在の場合病院へ電話にて相談できる関係性にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の提供や家族の意向など伝えることができ 何時でも相談できる関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望に対応している。できないことがあることを理解していただき、主治医や訪問看護を利用しながらターミナルケアとなるケースが多い。	重度化・終末期にはホームの方針を示した上で入居者及び家族の意向を最優先としている、家族の大半がホームでの最期を望まれるなか、医療行為を希望される場合には老健施設への移行に応じている。看取り時には主治医の説明のもと、訪問看護を導入し、出来る限り家族との時間を過ごして貰うよう配慮しており、泊まられ付き添われている。支援後は、運営推進会議のでも報告することとしており、家族からは感謝の言葉が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命法の実施や緊急対応に関して勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も緊急連絡網に協力していただいている 水災害・震災時自主訓練定期的に実施し、火災時訓練は地区の消防団員の方に参加いただいたがまだ、地域住民参加型は未実施である。	本年度は策定したBCPを基に昼夜想定 of 火災避難訓練や自然災害(土砂災害)訓練、及び事前の机上訓練等がおこなわれている。火災訓練時の地元消防団の協力や、消防署による救急救命講習、行政の簡易ベッドの作り方の講習など地域の協力体制がホームの危機管理を支えている。	古くから続いている地域の協力体制が出来ており、今後は住民との合同訓練を運営推進会議で提案し、実現に向けた取り組みが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーは常にあり、プライバシーの侵害にあたる言動や行動を見た時に周りが声掛けできるよう努力している。	職員は入居者への接し方や言葉使い、プライバシーに関する様々な問題について、勉強会の機会を持っている。担当職員が日常生活の中に気づきと取り上げ、ベッド中心の生活になられても、特に言葉選びや清潔保持といった入居者の宣言に係る事柄について同じ気持ちで対応するよう共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思決定の確認するようにしている。答えやすいような問いかけをしている。困難な時は、表情や態度で汲み取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調で、本人のペースに対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月日が経過していくと、化粧も髪染めも希望されなくなってきた。が似合いそうな服をきて過ごされるよう支援する。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在クッキングデポ利用しているので、栄養バランスはよい。汁物や盛り付けをお願いしている季節にあったおやつ作りをしている。	現在はホームでの手作り調理から、調理済の配食サービスに変更して提供している。食事を主に担当する職員の横で、入居者もエプロンがけで小鉢のつぎ分けや食後の食器拭きを手伝い、時にはホームでも手作り品を添えたり、季節の饅頭作り等が行われている。入居者の食形態に応じ手を加え、一口大のおにぎりや食べやすさや食の意欲を引き出すよう工夫して提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在クッキング利用しているので、栄養バランスはよい。水分も定期的に飲んでもらい脱水予防に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着か下着にパット使用の方法。そして紙パンツ使用である。尿便意に応じてトイレ介助やタイミングをみて声掛けにての排泄介助を実施している。	日中はトイレでの排泄を基本として、個々の間隔やタイミングをみて声掛けも介助を行っている。夜間帯にはリハビリパンツを使用する方もおられるが、日中は布パンツのみ、布パンツに尿とりパットを併用しながらコストを考え、一人ひとりに必要な「排泄用品」を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳や野菜ジュースやバナナなど摂っていただいている。 歩行できる方は歩くことをすすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回は必ず入られるようにしている。 順番や時間など決めず本人のリズムにあわせて誘導声掛けしている。	入浴日や時間帯を特に設ける事無く、ゆっくりとした入浴を支援している。毎日入浴する方や一日置き等もおられ、1対1の入浴の時間が大切であり、コミュニケーションの一つと捉えている。職員が持ち寄った袖やしょうぶで季節感を味わって貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「寝たい」「寝せて」「寝るとが楽」など本人にまかせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はファイルに綴じており、いつでもみれるようにしている。症状に応じて主治医へ報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みの仕事洗濯物干し・たたみ・台拭き・食器拭き 夜の晩酌気分や自宅へ帰る事・孫たちにあうことのようなのである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「出かけよ」に応じてドライブしたり、家族と外出や外食やお墓参り。文楽鑑賞での外出や自宅を見に一緒に出かけたりしている。	入居者の「家をいっぺん見てみたい」との声に自宅を見に出かけたり、「人形を見たい」には文楽館へ出かけ、家族の協力による外食や受診等も外に出る機会としている。職員は入居者が地域の一員として役場や郵便局などに出かける機会を作る等職員からアプローチすることもあり、商店での買い物等外出が楽しみの一つとなりよう工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金を持っておられる方はおられない 買い物時は立て替えをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけたり、職員の用事で家族へかけたりした際会話していただいたりしている。 手紙のやりとりをされている方はおられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	つくりがシンプルなので動線がわかりやすい。部屋を探されることはない。屋外も眺めることが出来開放的であり季節感を感じやすいように思われる。	経年に伴い、リビングのエアコンをビルトインから壁掛け式に変更し、温度管理をスムーズにしている。入居者は毎朝の体操や廊下の歩行訓練で身体を動かし、リビングに集まっ てはなじみの歌を歌いながら終日賑やかな空間としている。廊下や居室の窓から外の景色を楽しむ、面会に訪れる家族の来所を心待ちにされるなど、季節を常に感じる住空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこにでも腰をおろせるように椅子やソファールをおいているので各々好きな場所で過ごされるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族が馴染みのある物や必要な物を持参されている。	入居に際し、入居者がこれまで使用していた馴染みの物、最低限必要な物を依頼している。居室にはぬいぐるみ等の小物や家族写真を飾り、トイレへの動線を考慮し個別に検討したベッド配置としている。入居者のなかには居室を離れる際にはカーテンを閉め電気を消して出てこられる等これまでの生活習慣がホームでも活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	張り紙や名札を掲げている。必要な場所にベッド柵 足元のマットや夜間だけ必要なポータブルトイレや部屋での食事が必要な時に使用できるテーブルや椅子を準備している。		